

医師・研究者による 医療系スタートアップの起業の実際

—第5回医療機器開発シンポジウム—

慶應義塾大学橋渡し研究支援拠点では、昨年度に引き続き、医療製品開発人材の啓発を目的として、「医師・研究者による医療系スタートアップの起業の実際」をテーマにシンポジウムを開催いたします。

研究者による医薬品・医療機器等製品の社会実装の手段として起業という選択肢の存在感は増えています。前回の第4回医療機器開発シンポジウムでは医師の起業家から起業の実際について

ご講演いただきました。今回はキャピタリスト・インキュベーターとして活動している医師の先生方をお迎えし、キャピタリストとしての目線で医師による起業のメリットや、起業の実現、起業に関するDo's and Don'tsについてご講演・ディスカッションをしていただきます。本シンポジウムが、すでに起業している、また、これから起業を検討している研究者の励みとなれば幸いです。

プログラム

18:00 開会の挨拶

長谷川 奉延

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター センター長 教授

18:05-19:45 講演

演題[1]「アカデミア発スタートアップ創業前後の DO's and DON'Ts」

小林 宏彰

株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ プリンシパル

【略歴】

2010年東京大学医学部卒、ミシガン大学経営大学院修了(MBA)。2019年8月よりUTEC参画しヘルスケア、IT、ライフサイエンス等における投資及び投資後の経営支援を担当。現在、TXP Medical、メトセラ、フロンティアフィールド、Red Arrow Therapeutics、Cellusion、EnteraSense等、国内外10社超の社外役員を務める。UTEC入社以前には、救急集中治療医として6年間東京大学附属病院及び関連病院で臨床・教育業務に従事した後、医療機器業界のスタートアップ、大手メーカーにおいて、国内外での製造や販売等に関するアライアンス構築、アカデミアとの連携、KOLマネジメント、製品市場導入戦略など多様な業務を経験。



演題[2]「アカデミアにおける研究成果の社会実装」

池野 文昭

スタンフォード大学バイオデザインプログラム ディレクター

【略歴】

自治医科大学卒。僻地医療に従事した後、2001年からスタンフォード大学循環器科で研究開始。200社を超える米国医療機器ベンチャーの研究開発に関与。Fox Hollow Technologies, Atheromed, KAI Pharmaceutical, CV Ingenuity 等、成功したベンチャー多数。現在、Stanford Biodesign Advisory Faculty として教鞭をとりつつ日米規制当局のプロジェクトにも参画し、国境を超えた医療機器エコシステムの確立に尽力している。



演題[3]「起業・資金調達による開発と社会実装の実現」

長谷部 光泉

東海大学医学部医学科 専門診療学系画像診断学領域 教授
慶應義塾大学医学部 客員教授
マサチューセッツ工科大学 / ハーバード大学医学部 客員教授
Diamond Medino Capital 株式会社 CEO / 代表取締役パートナー
Global Vascular社 Chief Medical Director

【略歴】

1994年慶應義塾大学医学部卒業。博士(医学)、博士(工学)。Harvard 大学医学部 Brigham & Women's Hospital (PI.)、慶應大学医学部、国家公務員共済組合連合立川病院、東邦大学医学部を経て、2012年東海大学医学部専門診療学系画像診断学領域 教授。2004年～慶應大学理工学部にて医工連携チーム「Hasebe Research Group」を設立。様々なグローバル医療機器メーカーとデバイス開発・上市。開発一例として、2019年、承認申請のための臨床試験を担当したBiomedical Solution社の脳血栓回収カテーテルが上市された。現在は、AMED橋渡し研究、東京都AMDAPにて世界初の膝下末梢血管用細径ステントシステムを開発中。ベンチャーキャピタルCEO併任、シリアルアントブレナー。PMDA専門委員。関連学会理事・評議員多数。



演題[4]「医師による起業の実現」

内田 毅彦

サナメディ株式会社(旧社名 株式会社日本医療機器開発機構)
代表取締役CEO

【略歴】

内科・循環器科専門医。

ハーバード公衆衛生大学院修士・ハーバード経営大学院GMP修了。

医薬品医療機器審査センター(現PMDA)・日本医師会・アカデミア臨床開発支援の先駆け Harvard Clinical Research Institute(現Baim Institute)での勤務を経て、日本人として初めて米国食品医薬局(FDA)にて医療機器審査官を務める。さらに、世界的な医療機器大手 Boston Scientific 米国本社 Medical Director、米シリコンバレーにて医療機器スタートアップ企業へのコンサルティング業を経て、2012年(株)日本医療機器開発機構(現サナメディ株式会社)を設立。日本発の医療イノベーション創出に尽力している。



19:45-19:50 休憩

19:50-20:25 Roundtable Discussion

座長 竹下 修由

国立がん研究センター東病院 医療機器開発支援部長・
スタートアップ支援室長 併任

【略歴】

2006年千葉大学医学部卒業。10年ほど消化器・内視鏡外科に従事。消化器内視鏡学会専門医、消化器外科学会指導医、内視鏡外科学会技術認定医。2015年よりNational University of Singaporeで手術支援ロボットベンチャーとの共同研究に参画。2016年よりジャパン・バイオデザインフェロー(東京大学)、国立がん研究センター東病院大腸外科/NEXT医療機器開発センター。2021年より同スタートアップ支援室長、2022年より同医療機器開発支援部長。2017年に株式会社Alivas、2019年に株式会社Jmeesを共同創業。AMED事業における手術動画データベース構築/AI手術支援/AI手術技能評価プロジェクトの研究事務局をはじめ、臨床現場からの革新的医療機器創出や事業化、ベンチャーの育成・連携に取り組んでいる。



20:25 閉会の挨拶

伊藤 雅昭

国立がん研究センター東病院 副院長 大腸外科長
医療機器開発推進部門長・先端医療開発センター 手術機器開発分野長 併任

慶應義塾大学病院臨床研究推進センター主催

医師・研究者による医療系スタートアップの 起業の実際

—第5回医療機器開発シンポジウム—

日時: **2023年8月30日(水) 18:00~20:30**

形式: 現地/ウェブのHybrid開催(現地先着30名程度)

現地: 慶應義塾大学信濃町キャンパス総合医科学研究棟1階ラウンジ

対象: 医療機器等製品開発/起業に関心のある研究者・学生・
アカデミア関係者、病院関係者、企業等

参加方法: 下記URLまたはQRコードより、本イベント参加フォームへ
アクセスしてお申し込みください。現地参加ご希望の
場合もこちらからご登録ください。(要登録・無料)

https://keio-univ.zoom.us/webinar/register/WN_cfAv1sDRAtiLgaYs17TrA



お問合せ先 慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター TR部門(担当: 松岡、一木)
TEL: 03-5363-3474 (内線63744) Mail: apply-tr@ctr.hosp.keio.ac.jp

主催: 慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター

連携拠点: 国立がん研究センター 橋渡し研究推進センター